

技術者にとっての良心の形成と それに関する教育の意義について

第9回日本科学史学会西日本研究大会
2005年11月19日

田中克範 tanaka@computer.org
東京学芸大学教育学部

本発表の目的

- 技術者の倫理を向上させるための問題提起.
- 技術者は現実社会でどこまで良心的に、実効性のある行動ができるか？
- 工学系学会の倫理綱領や大学での技術者倫理教育の有効性についての検討.
- 1960年代のアメリカにおけるプライバシー論争から1970年代にいたるまでに、ACMとIEEEの倫理綱領が制定されたことを歴史的にとらえる試み.

良心に基づく一般市民の行動

- 法令や規則に反する行動をしないこと。
- 組織の内部にあっては，法令や規則に反する行動をさせないこと。
- 法令や規則を公益のために整備すること。
- 場合によっては良心と法令に矛盾が生じる。
e.g. 良心的兵役拒否（市民的自由を擁護するアメリカ自由人権協会ACLUの起源）。
- 専門家でなくとも，問題を科学的に解決しようとする。

良心に基づく専門家の行動

- 基本的には一般市民と同様であり，専門家だからこそできる積極的な行動が求められる。
- 専門的知識をもって，技術開発の結果もたらされる問題の予測と警告（組織内でまず解決を試みて，解決不可能であれば公益通報）。
- 専門家として市民に対する啓発活動，司法，立法，行政に対する見解の表明。
- 同僚や共同開発者との良好な関係づくり（なれ合いではない）。

「法令遵守」の限界

- 法令の遵守はそもそも当然のこと。
- すでに多くの企業において、就業規則などで従業員に対し法令遵守を義務づけている（違反者は直属上司とともに懲戒の対象）。
- より悪質な違法行為は経営側が積極的に関与。
- 法体系は複雑であるが、技術者はどこまで教育を受け、理解しているか。社内の法務担当者に任せきりというのが実態ではないか。
- 法令に違反しなければ問題はないのか。
e.g. 法令の未整備。違憲性が問われている法令。

1960年代のプライバシー論争

- 連邦政府が保有する個人情報を集散的に管理する「国立データセンター」構想が発端。
- 基本的人権への脅威として、国民、報道機関、議員からの強い反対意見。技術者への不信感。
- 法学的な議論から、プライバシー権の概念が拡張され、「ひとりにしておいてもらう権利」から「自己情報コントロール権」へ。
- 「国立データセンター」構想は事実上の頓挫。
- 拡張されたプライバシー権の概念から、具体的な法制定（Privacy Act of 1974 など）へ。

プライバシー論争とACM

- 計算機学会（ACM）は1947年創立.
- Professional Conduct in Information Processing (1966年11月11日 Council 採択)
- Don B. Parker, "Rules of ethics in information processing," *Communications of the ACM*, vol. 11, no. 3, pp. 198-201, (1968).
- 肯定的な評価：V. Packard, *The Naked Society*, Longmans, (1964) .
- 冷淡な評価：A. R. Miller, *The Assault on Privacy: Computers, Data Banks, and Dossiers*, University of Michigan Press, (1971).

プライバシー論争とIEEE

- 電気電子学会（IEEE）はアメリカ電気学会（AIEE）と無線学会（IRE）の合併により1963年成立。工学系学会としては世界最大といわれる。
- AIEEは工学系学会として最も古く、1912年から倫理綱領をもっていたが、合併により失効。
- IEEEの倫理綱領は1974年12月制定。
- 倫理綱領不在の期間におけるIEEE会員の意識。
- 後に、IEEE Computer SocietyはACMと共同で情報に関する倫理綱領を定めている。

学会倫理綱領の意義と限界

- ある分野における倫理の基準となる。
- 学会の会員が倫理綱領を意識することこそ重要。
- 学会非加入者をどうするか：特に研究職のエンジニアと、開発・生産に携わるエンジニアでは加入率に大きな違いがあると思われる。
- 論文投稿のため一時的に入会する会員。

技術者の良心と教育

- 内心の自由と良心の涵養を両立させる教育。
- 広い視野で問題を見つめることができるような教育。
- 法令の条文よりも、法令が何を保護するために制定されたものか、基本理念を知ること。
- 歴史を学ぶことの重要性。
- 良心に従って行動する技術者が表に出る社会。